

今日の株式市場の反応について

先週の「マーケット・スナップショット」で、紹介した小幡績・慶應義塾大学准教授の「仮説」。市場というのは、なぜ事実をあえて曲げて解釈するのか？

仮説 1 都合が良いから。

市場が乱高下したほうが取引チャンスが増えて都合が良い

仮説 2 あほだから。

今週も仮説 2 を信じたくなるような展開がずっと続いてきたが、極めつけは今日の動きだ。日銀は今日、残存期間 5 年超 10 年以下の国債を対象に、固定利回りで無制限に国債を買い入れる指し値オペを実施した。日銀は通常の国債買い入れオペでも 5 年超 10 年以下の予定額を増額した。明らかに金利上昇を抑制する姿勢を示した。これまで黒田総裁はいくら早期緩和縮小観測を打ち消しても、市場の勝手な思惑で円高が進行してきた。「口で言ってもわからないなら力で示した」というところであらう。

さすがに為替市場も白旗を上げた。米国金利の上昇もあって、本日の正午現在、ドル円相場は 109 円台後半まで円安ドル高に動いている。

一方、株式市場は大幅反落。日経平均の前場終値は 300 円を超える大幅安だ。これはいったいどういうことなのだろう（先週も同じフレーズを述べた）。日経平均が 2 万 4000 円を超えたところで一旦ピークをつけて、6 日続落となったのは、ダボスでの一連の要人発言などもあって円高が嫌気されたからではなかったのか。その円高も日銀の明確なデモンストレーションと米国長期金利上昇という「強烈な組み合わせ」で修正の動きが見られる。なぜこれに日本株が反応しないのか。

米国の金利上昇を警戒 - という声があるが、よその国の金利上昇をなぜそこまで気にするのか。当の米国市場は金利上昇のなかダウ平均は依然として 2 万 6000 ドル台を維持。決算を好感してアップルやアマゾンの株価は時間外取引で大幅高になっている。

あえて今日の株安に理由を見つけるとすれば、1) 昨日の大幅高の反動安、2) 今晚の雇用統計への警戒、であろう。

昨日の大幅高は 20 カ月連続の月初高というアノマリーだから、その特殊要因が剥落して下げたという解釈がひとつ。もうひとつの雇用統計への警戒は悪い数字が出るというより、その逆だ。強い数字が出て米国の長期金利が一段と跳ね上がることへの警戒だ。一気に 10bps 程度上がって 2.9% 台にもなればさすがに米国株も大幅調整は免れないだろうという懸念だ。

嫌な気がする。[こちらのレポート（雇用統計プレビュー）](#) もご参照ください。

日経平均は 300 円安だが、TOPIX は 16 ポイント（0.86%）安で比較的マイルドな下げにとどまっている。まだ早期に 25 日線奪回の可能性も残されており、トレンドが崩れたとは言えない。個別にも神戸鋼、花王、リコーなど好業績株への買いは入っており、今晚の NY 次第というところであろう。

TOPIX 日足チャート



出所: マネックス証券投資情報サイト

ご留意いただきたい事項

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではございません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではございません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先金融機関より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会